

新生「日本機械学会」に向かって



2016 年度（第 94 期）会長 岸本 喜久雄

日本機械学会が 1897 年に創立されたときは、会員数は僅かに 72 名であったと言われています。その後、本会は我が国の機械工学の発展とともに成長し、現在は約 35,000 名の会員を擁する我が国の最大級の学会としての地位を占めています。その 120 周年を迎える節目の年に会長を仰せつかりましたことは、大変光栄であるとともに、その責任の重さを実感しました。本会がこれまで発展してきたことは先人達の業績の賜であります。それを受け継いだ現役の私達は、本会の価値をさらに高めるために、10 年後、20 年後、さらにその先の未来に視点を置いた活動が求められると考えました。そこで、任期中はこれまでの本会の 120 年間の活動を総括するとともに、その先を見据えた活動を行っていくことを目標としました。1 年間で十分な成果を得たと言うことはできませんが、幸い皆様の協力を得て様々な取り組みを行うことができたように思います。7 月の合宿理事会では、「新生 JSME：日本機械学会の将来ビジョン」をテーマとしたワークショップを実施しましたが、事務局も加わって熱心な議論が出来たことを嬉しく思いました。建設的な意見も多く頂戴しました。

当期の活動内容は、学術団体としての基本は学術活動にあり、その充実が肝要であること、また、本会の活動は会員のためにあるという基本認識に立ち返るとともに、本会の存在意義を明確することが未来に向けて本会が持続的に発展していくために重要だと考え、重点を以下の 3 点に置きました。

- (1) 学術活動の充実に向けた取り組み
- (2) 会員にとっての魅力ある学会に向けての取り組み
- (3) 本会の活動に対する共通理解の醸成に向けた取り組み

(1) については、「部門のあり方検討委員会」や「年次大会検討委員会」を発足させて学術活動の活性化へ向けた検討を進めていただきました。学術誌のパワーアップも重要な検討課題でした。また、講演会の活性化と若手会員の増強を目指して、講演会での発表資格の見直しと学生会費の減額を実施しました。これが成果となるには、入会した学生が卒業後も継続して参加する学会であることが求められます。次世代を担う技術者の期待に応えられる学術活動の充実が望まれます。

(2) については「若手の会」や「JSME International Union」の活動の充実を計るとともに、女子学生の活躍を支援するために「第 1 回メカジョ未来フォーラム」を開催しました。これらは会員の多様性を増すための取り組みです。また、会誌とホームページを全面的にリニューアルしました。表紙には絵画コンテストで子供たちが描いてくれた「夢の機械」を使用しました。これらのことを通じて、会員にとってより身近な学会になることを目指しました。さらに、会員の方々には、本会からのサービスを受動的に期待するだけでなく、本会を主体的に有効に活用していただくことを望みます。「若手の会」をはじめとして、若手会員の積極的な参画を期待したいと思います。

(3) については、本会の未来のために、私達の使命や価値を再確認して本会の活動に対する共通理解を持つことが大切であるとの考えで取り組みを進めました。その結果として「新生『日本機械学会』の 10 年

ビジョン」をまとめ、それに向けたアクションプランを策定することができました。さらに、「新生『日本機械学会』あり方検討委員会」を設置して、継続して検討を行っていくための体制を整えました。

以上のような活動が、創立 120 周年のロゴ「夢を形へ紡ぐ」に託された、本会が「夢」を語り、「夢」に向けて行動する人たちの集う活気に満ちた場として発展していくための一助となることを願っています。なお、会長として、様々な国内行事への参加や、英国機械学会への訪問、米国機械学会やタイ国機械学会のシンポジウムへの参加、日中韓機械学会会長会議への出席などの国際活動を通じて多くの方々にお目にかかることができました。非常に楽しく充実した 1 年間だったように思います。